

### 3 秋田県の強み

## 学校の力

#### 1 P-D-C-Aサイクルの確立

○評価する機会の充実

- ・学習状況調査
- ・単元評価問題
- ・市町村等で実施している学力調査
- ・標準学力調査 等

➡ 結果分析力の向上  
課題に基づく具体的な授業改善（結果の活用）

↓  
授業の質的向上  
（基礎・基本の定着と活用する力の育成）

#### 3 学びのサイクルの確立

\*資料7参照

○家庭学習の充実への具体的手立ての充実

- ・放課後学習（大学生学習チューター等含む）
- ・自由（一人）勉強
- ・家庭学習リーフレット
- ・学習状況説明会（PTA） 等

➡ 学習の仕方の理解  
授業と放課後、家庭学習のつながりのある学び

↓  
学習の習慣化  
（家庭で学習する児童生徒の育成）

#### 2 個に応じた指導の充実

○少人数指導等の推進

- ・学習状況の把握
- ・きめ細かな支援
- ・少人数授業
- ・習熟度別学習
- ・補充的、発展的学習 等

➡ 研修の充実と指導方法の工夫  
児童生徒を主役にした授業

↓  
きめ細かな指導の推進  
（学習内容の定着と教師の授業構成力の向上）

#### 4 開かれた学校づくりの推進

○情報提供、学校公開等の積極的取組

- ・学級、学年、学校便りの発行
- ・学校公開日（みんなの登校日等）
- ・保護者による学校評価 等

➡ 家庭との連携の深まり、信頼・協力の獲得

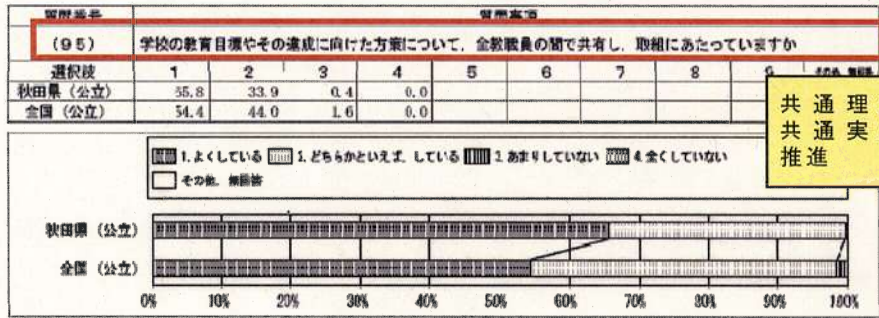
↓  
学校経営の改善と家庭教育力の向上  
（触れ合いや体験等の機会の充実、協力した指導の実現）

# 基盤をなすもの

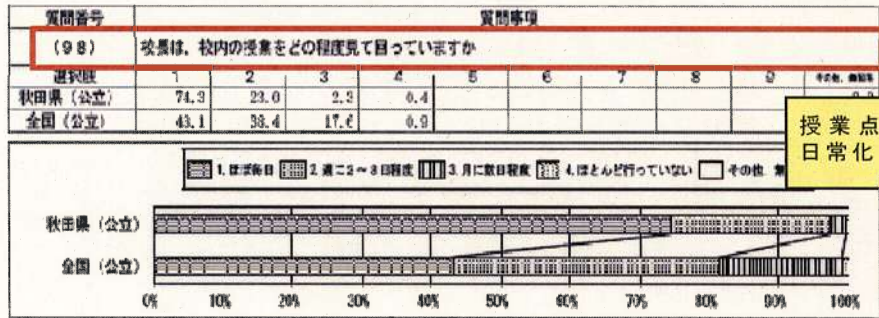
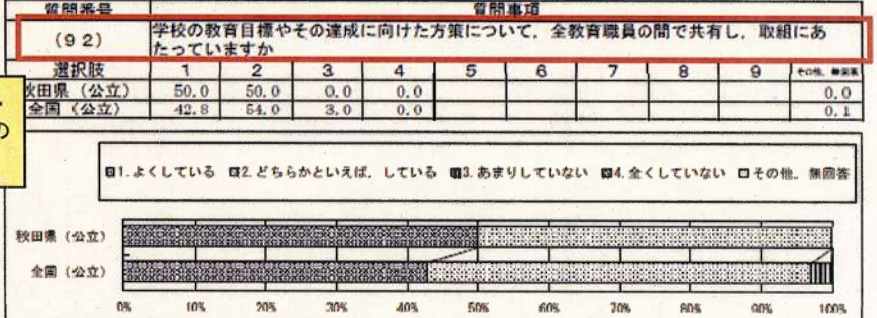
- 家庭生活の安定 ⇒ 家庭学習への取組
- 学校に対する理解と協力 ⇒ 学校教育の充実
- 生徒指導の充実 ⇒ 学習に向かう環境
- ふるさと教育 ⇒ 豊かな心の育成、問題解決力、活用力 等
- 教職員の年齢構成・採用状況 ⇒ 経験豊かな指導者、熱意のある指導者

## 家庭の力

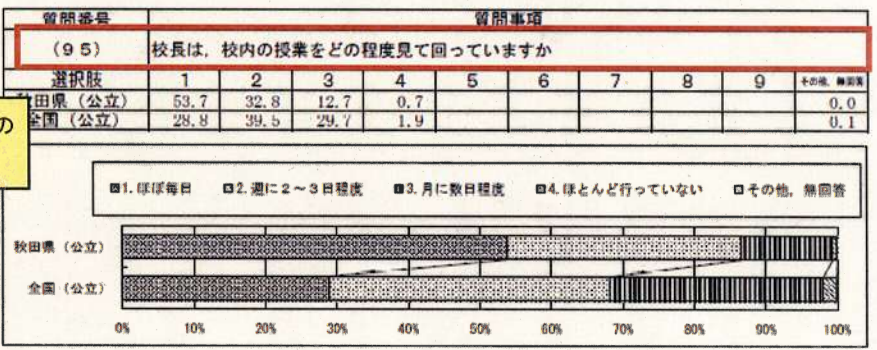
・教諭平均年齢 小学校…45.5歳、中学校…44.0歳 ※H22  
 ・採用状況 小学校…15名(9.4倍)、中学校…9名(39.0倍) ※H22



共通理解・  
共通実践の  
推進



授業点検の  
日常化





秋田わか杉っ子 学びの十か条

一 早ね早おき朝ごはんに家庭学習



規則正しい生活がスタートライン

二 学校の話題ではずむ一家団らん

笑いが脳を活性化



三 読書で拓く心と世界

めくるページ、広がる想像力



四 話して書いて伝え合う国語

国語力は学びの基本



五 難問・難題にも挑戦する算数・数学

あきらめずやりきることで能力アップ



六 新発見の連続、広がる総合

総合の時間は脳のビタミン



七 きまり、ルールは守ってあたりまえ

落ち着いた教室で高まる集中力



八 いつも気をつけている言葉づかい

相手意識でみがかく活用力



九 説明は筋道立てて伝わるように

整理する工夫が脳のトレーニング



十 学んだことは生活で学校ですぐ活用

活用できて本当の生きる力



## 本県の小・中学校のよさを生かしさらに充実・発展するために

検証改善委員会では3年間のデータを基に、「安定した取り組みをしている学校」「課題の改善状況が顕著である学校」がどのような特徴をもっているかを調べました。その結果、学力を支える関連因子がいくつか見つかりましたので、それらを5つの重要な特質としてまとめました。本県がもつ「強み」を最大限生かし一層充実させるという点から、今回、検証改善委員会が提案する「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」を各学校において参考にいただければ幸いです。

### 一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

#### 一 学校体制でPDCAサイクルの確立

毎年、効果のある取り組みを進めている学校では、個々の教職員の力量頼みではなく、組織として検証改善のシステムが確立されています。例えば、「教育目標やその達成に向けた方策について共通理解が図られている」「全国調査等の問題及び結果等を全校体制で活用する」などの調査項目で、本県は全国を大きく上回っています。PDCAサイクルを確立しつつ、教職員の共同研究・共同検討を大切にしていることがわかります。

#### 二 子どもたちが積極的に授業に参加できる学校空間

学校質問紙では「熱意をもって勉強している」「授業中の私語が少なく落ち着いている」「礼儀正しい」などが全国を大きく上回ります。また、児童・生徒質問紙でも「難しいことでも挑戦する」「自分にはよいところがある」などが全国よりもよい結果です。本県の子どもの前向きで真摯な姿勢が浮かび上がってきます。これは、教師や学年・学校での丁寧な生徒指導や授業づくりが生み出した成果です。

#### 三 子どもたちの思考を促し深める授業づくり

本県では、子どもたちが自ら考えることを大切にする授業が多く行われています。また、それをグループで話し合ったり、学級全体で意見交換をさせたりする授業も盛んです。「自分の考えを発表する」「よく話し合う」「グループで調べる」などが全国を大きく上回ります。ただし、子どもの思考を促し、相互に深めさせていく授業では、教師の高い指導力が求められます。そのためにも、教師相互の質の高い共同研究が大切です。

#### 四 自発的学習を生み出すきめ細かな指導

子どもたちに確実に学力を身に付けさせるためには、家庭学習の充実、朝・昼・放課後等での補充的学習の取り組みを大切にすることが必要です。それも、教師持ちでない自発的な学習を促す指導が大切です。本県では、「授業の復習を家でする」「自分で計画を立てて学習する」などが全国を大きく上回ります。今後さらなる学力向上を期して家庭学習充実のための指導、補充的学習の取り組み、課題の与え方等を、学校の体制として継続的に取り組むことが求められます。

#### 五 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

家庭と地域が、強く学校を支持してくれていることが、本県の教育の強みです。子どもたちの授業への姿勢、家庭学習の充実なども、それとかがかりがあります。本県では「ハロースクール&はっとエリア運動」を進めてきた結果、「授業公開など学校公開日を設けている」「学力調査結果を保護者や地域の人に説明した」などが全国を大きく上回っています。保護者が地域の人たちが学校の教育活動に参加している学校ほど、学力が高いという傾向も見られます。学校・家庭・地域の連携が豊かな教育力を生み出します。

平成 2 2 年 3 月 秋 田 県 教 育 委 員 会